

事業活動実績報告書

施設名	葛飾こどもの園幼稚園
教育理念	愛され必要とされる実感を持ち、多様な人を受け入れつながり合う人間教育の追求

事業の区分 (5領域)	健康 ・ ○人間関係 ・ ○環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	インクルーシブな保育実践の推進 —人的、地域資源の活用をととして—
2 実施期間	令和 6年 4月 1日 ~ 令和 7年 3月31日

3 取組概要	(取組日) 令和6年 4月11日 ~ 令和6年 5月17日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 各クラスにおいて、観察や見守りが”今”必要と考えられる子ども（気持ちや困っていることを伝えられないなどから、不安となる、乱暴な行動をする、人に危害を加える、仲間活動に参加しないなど）のニーズを検討する。支援担当とのクラス振り返りやケース会議など小さなコミュニケーションからでも、どの子どもに対して誰がどのように個別にかかわる期間を作っていくのか確認し、それぞれのクラスで”一人の子どもを知るための関り”を繰り返していく。	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和6年 5月20日 ~ 令和6年 6月28日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ■保育に生かす会議の開催(全ケースについて) 今年度は、さまざまに集団生活に困難さを感じている子どもの保育を作っていく時に、大学教諭、心理士、療育機関、園関係者とのケース会議や研究事業、相談の機会をととして共に保育を考え、一人の子どもの保育を保育者チームで検討していくことをテーマとする。クラスごと月1回程度、1回2時間。全体会も。	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和6年5月20日 ~ 令和 年 月 日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ●Sクラスの取り組み。 母親が外国籍で2か国語を使う年中男児Tは、園生活3年目に入ったが他児とのかかわりがうまくいかず手をあげる、他児のお弁当に指を突っ込む、お弁当を隠す、指で目を付くような行動をとったりなどして周りは神経を使う状態となっていた。事があるごとに友にも”NO”と言われ激しく泣き続けることが続いたため、担任は避けるように新任に任せて保育を行っていた。	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和7年 5月22日 ~ 令和 年 月 日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 5月20日の外部講師を招いてのケース会議で、朝の支度を終えてから遊ぶ習慣を身に付けること、場をわきまえず行う”側転”に対して視覚的に示し禁止すること、小さなグループによる遊びの場を繰り返し関係を作ること講師より提案を受ける。このことから、毎日お弁当活動の前に担任を中心に3名ほどの年長中児と共に10分ほど遊ぶことを繰り返した。	

3 取組概要	<p>(取組日) 令和6年 5月22日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>クラス担任がクラス活動を抜け15分程誰もいないホールを使いリズム遊びや三輪車遊び、側転の練習などT児の得意であり好きな遊びを通して楽しい時間となるよう”遊ばせよう”とするのではなく”自分たちだけの特別な時間”を楽しみながら子ども同士がつながるよう”T児が楽しめる遊びをしよう”と声をかけ子どもの真ん中で見守るようにした。T児は、静かで中心に置かれるような環境の中で徐々に年長児Gと共に三輪車に乗り、ボール遊びを楽しんだ。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年 6月 3日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>支援担当とクラス担任3名との保育の振り返りから、クラス担任と他3名の限定された活動であること、静かな自分たちだけの公式な空間であること、楽しい遊びを自分たちで考えられること、などから、仲間が「遊戯室タイムはじまるよ」と声をかけると、場面を切り替えることの難しいT児が「遊戯室ね、待っててね！」と走って向かうように変化してきていた。並行して友達とぶつかり合うことなく一緒に遊ぶ新たな姿に担任は、愛おしさを感じ始めた。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年 5月24日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>ケース会議において助言を受けた”側転を禁止する絵カード”について担任間では、普段から多くの”否定や禁止”を受けているT児に対して”禁止”でなく”肯定”から入っていくアプローチを模索していただけて戸惑いを感じながらも、口先だけににならないように”この場面ではダメです”という分かりやすく毅然としたメッセージとして伝える必要も感じていたため作り使用してみた。結果的には、煩雑さのある保育のなかで効果を感じることができなかった。</p>	<p style="text-align: center;">写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>
	<p>(取組日) 令和6年 6月17日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>ある日、G児がT児の影響からか「側転を練習してきたよ！」と登園し、その日の”遊戯室タイム”に「T君、側転するから足伸びているかみてて！」とT児に見てほしいと側転を汗をかくほど続け、T児が年長G児に笑顔で”グーサイン”を向けていた。保育後の振り返りでは、園内で問題となる行動に対して保育者が必死に禁止し否定するばかりではなく、内容や状況によっては肯定的に受け止めることで友と喜びを共感する時となったことを共有できた。</p>	<p style="text-align: center;">写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>
	<p>(取組日) 令和6年 6月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>側転を年長G児に認められ友と共感できたことについて、全体で振り返り研修の場を持つ。問題となる行動や遊びについては、”いけないこと”をその子に明確に分かりやすく伝える必要はあるが、並行して関係作りのための向き合い方や保育者の意識、時間の使い方、体制作りが本質的な解決のために必要であることを確認する。認められ仲間の見の目が変わること、担任保育者のT児に対する思いの変化が、クラス運営に大きく影響することを共有する。</p>	
	<p>(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p>	<p style="text-align: center;">写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>

3 取組概要	<p>(取組日) 令和6年 9月 1日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>●Nクラスの取り組み。 複数担任制(1クラス3人担任)でクラス運営を行っているが、1年目の担任にも"ある子どもと向き合う経験"をしてほしいと、3学期9月から始める。両親も日本語が話すことができない外国籍の子どもで、年中時の6月に入園してくる。コミュニケーションの困難さがあり、仲間関係など満足することができず口調や表情が厳しく自由遊び時間などは保育者を介して2、3人の運動遊びを楽しんでいた。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年 9月 6日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>一斉保育場面や活動と活動の合間など、言葉理解の難しさなどからどのように過ごしたらよいか分からないようで、身の置き所に苦しんでいるように見えた。そこで、クラス内で話し合い対象B児と3人の友達、そして1年目の保育者Nの5人で"バナナ鬼グループ"と名付け(B児が初めて友と雰囲気を楽しめた遊び)、お弁当の準備をする時間帯(10分程度)に子どもたちのいない園庭に出て"バナナ鬼"を保育者がさりげなくB児を中心に活動を始める。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年 9月 6日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>この日は一回目ではあるが、保育者に指名された3名と自分たちだけの場所で担任保育者を独占して遊べることに仲間意識を持ったのか、B児が「～が来るまで待っていて!」と片言の日本語で声を上げゲームを進めずに仲間を待つ姿に驚かされた。そして、いつものゲームを4名で大声を上げて楽しんだ。「あと一回バナナ鬼やったら3人で絵本を読もうね」と伝え、切り替えの困難なB児が「OK」と受け入れる。仲間遊びに満足を感じているのか?</p>	<p>写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>
	<p>(取組日) 令和6年 9月 日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>ベテラン保育者の思い。 ものを投げることや騒がしい状態をおさめることを目的とするのではなく、3名の仲間や保育者が遊びを通して向き合うことにより、B児の新たな姿や良い姿に出会い、その先の保育をイメージできたり、B児のための準備をしていくことができるようになることが目的であると、改めて1年目保育者Nと話をした。</p>	<p>写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>
	<p>(取組日) 令和6年 9月10日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>バナナ鬼チーム活動を数日続けてきたある日、メンバーである年中男児が「B君においで! というには、どう伝えたらいいかな?」と聞いてくる。「いつもカモン! って言うよね」「B君と一緒に遊びたくなっちゃった」。お弁当も一緒にグループとなっているため、「B君、パンって中国語でなんて言うの?」。保育者の仲介をとおして「メンパオ!」。B君とつながりたいY君。B君もY君に聞かれて嬉しそうに笑みを浮かべていた。</p>	<p>写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>
	<p>(取組日) 令和6年 9月12日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>午後、バナナ鬼メンバーで"中国式トランプ"を始める。B児のトランプであるからか「Y、ダメ! 」と激しく伝えようと言葉にする。保育者が「Bくんどうしたの、なんで?」「Bが4でYが2!」。保育者が「Bくんの方が数字が大きいということ?」その後何度もB児は聴きとれない日本語で伝えようとする。普段は怒って場を外す場面だが、しくしくと泣きながら伝えていた。見守るようにしていたYの「Bくんごめんね! 」に、涙が止まり4人でのトランプ遊びが再開した。</p>	

3 取組概要	<p>(取組日) 令和6年 9月13日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>行事1部りハーサル時に、2部であるクラスは外遊びをしていた。バナナ鬼メンバーはそれぞれに違う場所で遊んでいた。一年目保育者Nは、意図を持ちそれぞれに遊ぶメンバーに声をかけるが「焼き芋食べるから」と離れず、また「バナナ鬼チームはいつも同じ絵本つままない！」と言い集まらない。砂場遊びをしていたB児に声をかけると「OK、手を洗ってくる」と走り出し「K、Y、I、バナナ！」と声をかけると3人がすぐに動き出していた。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年 9月16日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>行事活動の隙間時間、他クラスの皆が園庭で遊ぶ中でバナナ鬼チームの活動が始まる。チームでない他クラスの友が「入れてー」とやってくる。B児とよく遊んでいる友達であるため「いいよ！」と遊び始めるであろうと見ていると、「ダメだよ、YとKとIとN先生でバナナ鬼」とほとんど単語だけであるが、「今はバナナ鬼チームで遊ぶ」と言っているのが伝わってくる。拒否していたバナナ鬼チームの遊びや仲間を大事に楽しんでいる様子に嬉しさを感じた。</p>	<p>写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>
	<p>(取組日) 令和6年10月20日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>年を明けても毎日同じメンバーでバナナ鬼で走り続けている。少しずつルールや方法が子どもたちの声により変化してきている。今まではB児を中心に活動してきていることもありB児が必ず「保育者Nが鬼になる」ことを決めるようなスタートとなっていた。しかしこの日は、B児と同学年のY児が「いつもN先生が鬼だから今日はちゃんと鬼を決めよう！」と提案があり、B児もY児のいつもと違う提案に自然と納得し、保育者も普段と違う視点で遊びに参加できた。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年10月28日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>当初は、B児のために始めた「バナナ鬼チーム」ではあるが、チームに参加する皆が楽しい時間とならないとB児のためならず続かないこと、そして、子どもたち同士だけでなく、保育者も子どもとつながり、自然な姿を感じ、本音を言い合うような生活を「ねらい」とすることを改めて確認する。この活動を誰を対象にして誰が参加すべきか、その活動の経過から「その時の子どもに合わせた保育」を作られていくことの喜びを感じられた。</p>	
	<p>(取組日) 令和6年 月</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>■保育に生かす園関係者の協力 このクラスのケースでは、上記の先生方との会議を行うほかに、園関係者(卒園した保護者や在園児保護者)の協力があった。学生時代に中国に留学し語学に精通する保護者が仲間(ご主人が中国国籍の方など)数名に声をかけ、両親共に日本語を理解できない家族とのつながりや幼稚園の制度、日本の文化、園の考え方、保育方法など、園をとおしてコミュニケーションを持つことができた。</p>	<p>写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>

効果検証報告書

施設名	葛飾こどもの園幼稚園
教育理念	愛され必要とされる実感を持ち、多様な人を受け入れつながり合う人間教育の追求

事業の区分(5領域)	健康 ・ ○人間関係 ・ ○環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	インクルーシブな保育実践の推進 —人的、地域資源の活用をとおして—
2 事業概要	様々な地域資源を活用して、集団生活に適応しづらい子どもたちの”オーダーメイド”による保育の検討を、複数のクラスにおいて行われるよう計画していく。

計画時

3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 大学教員との月1研究会や研修会(園全体)、療育機関等の心理士、相談員との月1ケース会議(クラスごと)、シンポジウムや研究発表での他園との話し合い(有志)、在園また卒園児保護者による外国籍家族支援、地域開催の研修会参加などを通して、園又は保育支援担当者による園内保育検討会や会議、報告共有の場の設定。
--------	--

事業後

3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 一人の子どものオーダーメイドが必要な保育のためには、一人の担任による試行錯誤だけでは無理があり園全体での協力関係、コミュニケーションが不可欠となるが、それと並行して幅広く様々な立場の先生方とつながりを持ち、保育者とは違ういくつかの視点で捉えることにより、現場保育者がチームで考え深く試行錯誤する場が作られていった。
-------------	---

計画時

4 事業のねらい	昨年度より行ってきた”一人の子どもと向き合う”というテーマを、どのクラスでも意識していくために”地域資源”を活用し、様々な視点から”一人の子どもに合わせた保育”をチームで検討していく。これは、その子を含む共に活動する仲間にとって楽しい活動、心地よい時間となることを考え、共に活動する仲間がその子をよく知りつながりが生まれていく保育としていく。周りの子どもたちとの関りやつながりから、保護者など大人の理解につながる事が重要となる。園全体につながりや理解、支える行動が浸透し広がっていくことが長期的な目標となる。今回、その長期的目標に向けて、園全体で”子どもと向き合う”というテーマを持ち、インクルーシブな保育に向けて各クラスで試行錯誤して保育が作られていくことをねらいとする。
----------	---

事業後

4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 園全体で”向き合う保育”の実践が広がることを目指したが、各クラスの事情(保育者数やクラス子どもの状況)が異なり取り組むことさえ厳しいクラスもあった。しかし、自身のクラスだけで頑張ろうとせず、他クラスや支援担当と相談したり、地域資源を生かし問題意識を共有することにより保育者同士がつながり、考える時がつくられてきたと感じられた。
-------------	---

5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ①助けを必要とする対象児をクラスとして検討。(観察、小人数遊び、見守りから) ②毎日10分程度個別に関わりを繰り返す。(子どもによっては2, 3人で)対象児の興味関心を知る、好きな遊びや人のかかわり方を知る。 ③毎日クラス内で報告し内容の検討をする。必要があれば園全体で確認、報告。遊びの様子からどんな助けを必要としているのかなどケース会議などで検討毎日10分の活動が、皆が意欲的に楽しめるよう検討を繰り返す。 ④外部講師や心理士に活動を見てもらい、園活動内容として説明、提案をもらう。仲間とのゲーム遊びなど集団生活場面であるからこそ学べることの確認。保育者には見えていないことや、新たな視点での提案や問題意識をもらう。
---------	---

事業後

5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 この取り組みにより、対象児の仲間関係をとおした状態や様子、興味関心事や好きな遊びが見えるようになること、そして、この時間を対象児を中心とするように毎日繰り返すことにより、対象児の満足する時間となり落ち着き安定して、相手に喜ばれるような関わりが生まれやすくなる。また、楽しい場となるように関わり方を交通整理するようにつなげていく保育者(楽しい場所を提供してくれる保育者)に対する信頼関係が築かれた。クラス活動で生かされる保育が見えてくる。
-------------	--

計画時

<p>6 環境構成</p>	<p>これらの保育を進めていくためには、園としての方針とクラス内での了解、理解が必要となり、複数担任の柔軟な役割交代や保育計画の変更などを行うことのできるチームとしていくことが大切である。子どもの声や様子から、柔軟に保育を変更したり保育者を入れ替えることのできる意識を持っていること、そして、そのための時間や場所を保証してくれるチームであることが重要となる。</p> <p>これらのことを試行錯誤しながらチームとして共に考え継続的に検討していく場が計画的に作られていくことである。この”考え検討していく場”が整えられていくこと、常にその時の課題や問題を仲間と共有しているチームであること。</p> <p>これらの、柔軟に保育を作り出していくことのできる環境と、そのことを定期的に振り返り方向修正していくことのできる場が整っていることの2つが揃って可能となる保育である。これらのことは、より園全体で常に確認され意思疎通がなされ問題意識を共有していることが前提となる。このようなことが、年月をかけて積み上げられていくことにより、柔軟な保育をチームとして作りやすい環境となっていると考える。</p>
---------------	--

事業後

<p>6についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>クラス内での了解や理解については、その年のチームのメンバーにより様々であるが、園としての方針が常に示され数年という時間をかけて積み上げられていく必要を感じた。保育者同士の相性もあり常に良い環境が作られる訳ではなく、クラスによる違いや保育経験にもより差が感じられた。定期的な検討の場や柔軟に保育を作りだしていくことのできる環境が整うことにより、若手保育者でも必要な時に必要に合わせよいタイミングで動くことができていた。</p>
--------------------	---

7

<p>期待される効果 児童の姿</p>	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等</p> <p>仲間関係を作る過程において、つまずき苦しんでいる対象児が、保育者との楽しい時間を過ごすことにより信頼関係がつけられ満足した生活となっていくと、気持ちの安定が生まれ人とのかわりが自然と行われること、そして、保育者を介してのかわりではあるが、楽しい時間であるからこそ社会的スキル(順番や遊びなどのルール)を身に付けていく場となること、また、遊びをととして自分の気持ちや感じていることを言葉にすること、自分の思いどおりいかない時の気持ちを抑えたりしながら少しずつコントロールすること、友の名前を覚え相手にも自分の名前を覚えてもらい遊びや活動をととして楽しいことを共感することができるようになることなどを期待する。</p>
-------------------------	---

事業後

<p>7についての効果・検証</p>	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <p>この小グループでの活動が、楽しい時であるからこそ学ぶことのできる時間となると考えるが、”出来た””出来ない”という目の前の結果ではなく信頼をおける保育者や友だちとの共感できる遊びや生活を積み上げていくことが不可欠である。しかし、このような丹念な向き合う保育を積み上げていくことにより、大きな集団であるクラス活動などでも仲間とのかわりを楽しんで参加する姿を見ることができた。</p>
--------------------	---

8

<p>効果検証 総括</p>	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて</p> <p>今回の取り組みをととして、助けを必要としている一人の子どもに焦点を当てて保育を考えてきたが、何のためにこの小グループの遊びを繰り返すのかを常に見直しをしていく必要があると感じた。大切にしたい一つ目は、一人の子どもをよく知ること、二つ目は、人と人がつながり活動することの心地よさを経験すること、三つ目は、その仲間との活動から見えてくるオーダーメイドの”その子の保育”を作っていくことであると考えている。こう考えると目的は、対象となる子どもの社会的スキルを高め、集団活動に順応できるよう支えようとなりがちであるが、インクルーシブな保育を目指す時に重要な課題となるのが”一人の子どもと時間をかけて向き合えること”、そして”一人の子どもを取り巻く子どもと大人の成長”であると考えている。</p> <p>小さなグループ活動の繰り返しであるが、限定された保育者だけで作っていくのではなく、地域社会とつながりを持って活動していく必要を感じた取り組みとなった。</p>
--------------------	---